

薬局における医薬品の 適正使用と事故防止対策

座長
日本薬剤師会副会長
和歌山県薬剤師会常務理事
川上純一
山本雅子

本分科会では、医薬品の安全使用について焦点を当てる。医薬品安全については、調剤やその準備段階での取り組みから投与後の有害事象への対応までの幅広い観点で留意すべきことがあり、われわれ薬剤師には深い理解が必要である。

はじめに、「今日から減らす！事例で学ぶ調剤エラー防止策」の著者で産業カウンセラーである荒井なおみ先生から「人に焦点を当てた調剤ミス対策を考える」と題して講演いただく。人間関係・個人特性・職場等の環境などの様々な視点から調剤ミス防止への対策や考え方についてご解説いただく。

次に、兵庫県薬剤師会の吉田太郎先生から「患者メリットの最大化につながる薬剤師連携」について講演いただく。兵庫県薬剤師会と兵庫県病院薬剤師会とで取り組まれている適正使用と事故防止に向けた情報共有についての事例をご紹介します。

後半では、日本病院薬剤師会の林昌洋先生から「重篤副作用疾患回避マニュアルの利活用」と、医薬品医療機器総合機構(PMDA)の大澤智子先生から「適切なリスク管理に向けたPMDAの取り組みについて」お話しいただく。前者は重篤副作用疾患回避マニュアルについて、厚生労働省医薬安全対策課委託事業として患者・一般の方向け啓発の目的でアンケートを昨年実施したところ、それ以前に薬剤師への普及も必要であることが分かったために依頼を受けた講演である。後者は毎年恒例のPMDA共催企画であり、医薬品リスク管理計画(RMP)等の医薬品情報の活用についてご専門の立場よりご解説いただく。

一部の医薬品安全管理責任者では管理者向け講習を年間1回以上受講しているが、多くの薬剤師には医薬品安全に係る研修の機会が少ないかもしれない。医薬品安全は日々の調剤や患者の薬物治療に関わる全ての薬剤師に必要な取り組みであり、日薬学術大会での本分科会をぜひ活用していただければ幸いである。

(川上純一)

患者のための薬局ビジョン実現に 向けた薬局機能向上について

座長
日本薬剤師会理事
和歌山県薬剤師会常務理事
山田武志
古川晴浩

2019年に「医薬品医療機器等法」が改正され、21年8月には認定薬局制度が創設された。本制度では、患者が自身に適した薬局を選択できるよう、要件を満たした薬局がそれぞれ「地域連携薬局」や「専門医療機関連携薬局」を標榜することが可能となったが、制度が施行され2年が経過した今、改正薬機法で見直された薬局の定義や患者のための薬局ビジョンで示された薬局の機能を実効あるものにするのが求められており、本分科会では地域の薬局に求められる役割を改めて議論し、地域全体で患者を支えるために何が重要であるかについて議論する。

基調講演では「地域全体で患者を支えるために薬局ができることー協働と連携」と題して、京都大学医学部附属病院薬剤部の寺田智祐教授に昨今の医療制度改革を振り返りながら、地域全体で患者を支えるために薬局に期待す

ることや、京都大学医学部附属病院薬剤部における地域連携に関する取り組みなどについてご講演いただく。

次に「地域連携による薬物療法、医薬品提供体制への貢献」と題して、よりどころ薬局の寺井竜平氏から、中山間地域において面薬局として開局した実例をもとに、地域連携の推進やその連携がもたらした薬物療法の事例、そこから見えてくる薬局・薬剤師の地域における役割などについてご講演いただく。

続いて「がん治療における医療機関との連携を生かした患者サポート」と題して、長野県薬剤師会会営薬局の村田稔弥氏から、専門医療機関連携薬局として医療機関との連携・情報共有や癌患者へのサポートの実例などについてご講演いただく。

最後に「薬局製剤の活用法と面白さ」と題して、マルトク薬局の徳永大祐氏から薬局製剤の処方提案事例を通して、薬局製剤の面白さや地域住民への貢献についてご講演いただき、総合討論として、患者のための薬局ビジョン実現に向け、今後の薬剤師の役割について議論を行う。(山田武志)

OTC医薬品と薬剤師、OTC医薬品は 今後どうなっていくのか。

座長
日本薬剤師会常務理事
和歌山県薬剤師会常務理事
岩月進
坪山晃大

日本薬剤師会は、地域において、必要な医薬品を適切に過不足なく提供することは薬剤師の基本的な使命であるとした上で、薬剤師・薬局は、国民のために、持てる全ての知識と経験を駆使してその使命を果たしていく、と政策提言の中で明確に示している。

これは、地域包括ケアシステム下において、OTC医薬品を含めた医薬品の提供は薬剤師サービスの基本であると位置づけた考え方である。そして、医師はもとより関係する医療や介護従事者をはじめ、薬局と保険者などが連携できる仕組み作りなど、セルフケア/セルフメディケーションを推進するため、OTC医薬品の使用促進に係る数値目標の設定と行うべき対策を整理し、OTC医薬品をより効果的に利用できるようにすべきである、としている。さらに、薬局の

経営面から考えても、今後の処方箋枚数の伸びは限定的であり、調剤以外の業務を充実する観点からも、OTC医薬品販売、相談応需を含めた使用環境の整備は緊急に取り組むべき課題である。

また、「緊急避妊薬」については、薬剤師による販売の実現性等を確認するための調査研究の実施が目前に迫り、薬剤師が国民の期待に十分にこたえなければならない場面である一方で、一部で見られる不適切ないわゆる「零売薬局」問題や、規制改革会議等による販売方法の変更提案など、適切な医薬品提供のために薬剤師・薬局が対応すべき課題は山積している。

薬剤師・薬局が、地域において、OTC医薬品を含めた必要な医薬品の提

供を適切に過不足なく提供し、セルフケア/セルフメディケーションを推進していくために、本分科会では、製薬団体である日本OTC医薬品協会理事長の磯部総一郎氏、保険者の視点から三菱商事健康保険組合常務理事の柴生達夫氏、医師であり、医療用医薬品とOTC医薬品の成分重複問題の解決に注力しておられるプラメドプラス代表取締役の平憲二氏、一般開局薬剤師として、光栄堂薬局代表社員の堀川壽代氏、元ドラッグストア勤務薬剤師として、京都薬科大学特命教授の杉本幸枝氏からそれぞれの立場を代表してご意見をいただき、その後、意見や情報の交換と共有が図られる分科会になればと考えている。

(岩月進)

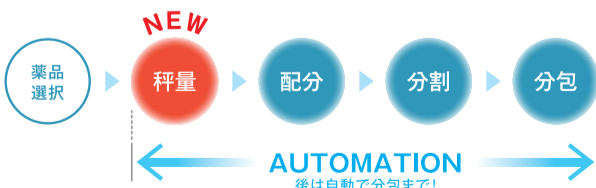
理想の医療空間をカタチに。患者さんと向き合う時間創出を目指して。

業界初!

円盤式分包機に **自動秤量機能** を搭載。

秤量から分包まで、**SR-zero**にお任せください!!

調剤スペースで薬剤師の先生方が調剤作業を行う時間を「ゼロ」に。患者さんへのコミュニケーションだけでなく、服薬指導や在宅医療に取り組む薬剤師の活躍を支えます。



SR-zero

Your Partner in Medication
yuyama

散薬カセットを装着するだけ!

EXHIBIT

「第56回日本薬剤師会学術大会」に出展します。
和歌山県民文化会館・小展示室
でお待ちしています。

Your Partner in Medication
yuyama

大阪本社ショールームにて実機をご覧いただけます。

また、Zoom®を使用し、弊社大阪ショールームを繋いだWEB見学会も実施しています。お申し込みについては右記2次元コードからアクセスして下さい。

※Zoomは、Zoom Video Communications, Inc.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。



当ファイルの著作権は(株)薬事日報またはコンテンツ提供者に帰属します。当ファイル(印刷物含む)の利用は私的利用の範囲内に限られ、それ以外の無断複製・無断転載・無断引用はご遠慮ください。当ファイル(印刷物含む)を社内資料、営業資料などでご利用される場合はご相談ください。

株式会社薬事日報社 TEL:03-3862-2141 shinbun@yakuji.co.jp http://www.yakuji.co.jp/